

令和4年10月14日(金)

(山陰中央新報) それでは、初めに市長のほうからよろしくお願いします。

(上定市長) 本日も、よろしくお願いします。

1つ目、「ガンプラリサイクルプロジェクト」についてです。松江市では環境に資する取り組みとして、プラスチックの削減に向けた取り組みを進めています。これが第三弾で、第一弾が6月からHOYAアイケアカンパニーと共に使い捨てのコンタクトレンズの空ケースの回収を始めました。今も松江市役所の入り口に回収ボックスを置いており、5,300個、5.3キロを回収してリサイクルに回すことができています。第二弾が8月からパイロットコーポレーションと、ボールペンあるいはシャープペンの使い終わったものをリサイクルするというので、こちらも市役所の入り口のところにボックスを置いてあります。2か月置きに新しいプラスチックのリサイクルの取り組みを始めています。プラスチックを回収してリサイクル、リユースすることによって環境に対する負荷の低減につながるということ、ごみを出さなくて済む社会の構築を目指していくという取り組みです。ガンプラというのは、ガンダムシリーズのプラモデルのことで、そのプラモデルの部品を外した後の枠の部分をランナーといいます。バンダイナムコグループ4社の取り組みとしてこのランナーを回収して、最新技術で新たなプラスチック製品に生まれ変わらせるというプロジェクトを昨年の4月からスタートしています。この取り組みに協力する自治体としては西日本では初めてで、全国ではバンダイナムコの工場がありつながりの深い静岡市に次いで2件目となります。バンダイナムコが島根スサノオマジックのメインスポンサーというご縁で総合体育館に島根スサノオマジックのホーム開幕戦の日から設置しています。ランナーを入れると回収BOXの上のハロというガンダムに出てくるキャラクターのロボットがしゃべってくれてとてもかわいらしいです。こういった形で、プラスチックのリサイクルを各方面から始めていますが、今回バンダイナムコさんの協力を得ることができましたので、ぜひご協力をいただければと思っています。

2つ目は、この秋に開催される文化関連イベントについてです。10月16日、3年ぶりに松江祭鬘行列を開催することができます。国宝松江城から松江大橋、そして白潟天満宮がゴールということで、参加団体は14団体、参加者数およそ1,000人を予定しています。鬘行列について少しだけ触れますと、松江藩の第5代藩主松平宣維公の元にお嫁入りをされた岩姫が遠くから知らない地に来たということで、各町内で華やかに太鼓を打ち鳴らしてお迎えしたことが原形と言われています。その後、大正天皇が即位する際に儀式として現在の形に近い鬘が行列する形式となり、松江を代表する伝統行事として受け継がれているものです。松江城の大手前駐車場で式典を行います。おはらいなどの神事、鏡割りなどを行った後、1番台が出発地点を出ます。そして式典会場で演舞をいたします。この演舞場で順改めといいまして、通行許可を市長が与えます。市長が与える前に、その鬘の地域の特性や今回の意気込みを市長の前でお話をいただき、その口上に対して市長が口上返しをして、通行許可を下すといった儀式があります。この関所を通過した鬘は、その後、殿町・大橋・白潟、そしてゴールの白潟天満宮の演舞場でそれぞれ舞を披露されます。ぜひ演舞場で足を止めていただき、目当ての鬘に耳を傾けていただきたいと思います。そして、今回この鬘行列がガイドグループが毎年作成している「日本の祭り」というドキュメンタリー番組に採用されました。これは全国各地の民放局が1時間の特別番組を制作して全国に提供するもので、今年が20年目になります。令和元年にはホーランエンヤが取り上げられています。放送予定が11月12日で、ユーチューブでも配信されます。松江神社での順番決め、総会などの準備の段階から撮影は始まっています。ぜひ、ご覧ください。

さらに、前日の夜に前夜祭に当たる宵宮が開催されます。これは2つの会場を設けています。松江城の大手前広場とJR松江駅の北口でそれぞれ3団体が鑿を披露します。併せて鳥取しゃんしゃん傘踊りなどのイベントも開催されますし、松江城の周辺では松江水燈路も開催中ですので、ぜひお出かけください。

次に、第72回の松江菊花展です。山陰を中心とする菊の愛好者が一年の努力を傾注し培養した菊花を集めて展示します。10月29日から11月13日まで、城山公園の馬溜広場で開催し、入場は無料です。出品者が約50人、出品数が500鉢、10の部門に分かれて菊の花の美しさを競います。実は非常に由緒正しい展覧会で、審査を経て優秀作品に賞が贈呈されますが、文部科学大臣賞と農林水産大臣賞がある菊の展覧会というのは山陰で唯一となっています。ぜひお出かけください。

次に、松江歴史館の特別展と歴史館の隣にある松江ホーランエンヤ伝承館についてのお知らせです。松江歴史館で今日から「古代出雲の中心地・松江」と題し特別展が始まりました。この松江歴史館で古代をテーマに展示をするのは初めてになります。今年は、出雲国分寺跡の史跡指定からちょうど100年、出雲国府跡が50年、田和山遺跡が20年を迎え、今年の3月にはこの田和山遺跡に神後田遺跡が追加指定されています。これらを記念し、古代出雲の中の松江についてスポットライトを当てた特別展を開催することになりました。主な展示内容は、神後田遺跡、田和山遺跡から出土した土器あるいは板石硯。大草町にある古天神古墳からの出土の遺物は、大正4年に発掘されたものですが、保存に万全を期すために東京国立博物館に収蔵されており、半世紀ぶりに松江に里帰りして展示されます。併せて、「古墳時代の墓制と出雲型石棺式石室」について島根大学の岩本崇准教授から、「弥生時代の橋南地域」について市の文化財調査課の三宅学芸員さんから講演いただきます。さらに関連イベントとして、鹿島歴史民俗資料館、出雲玉作資料館、八雲立つ風土記の丘でも古代展を開催中で、スタンプラリーを行います。4つ回ってスタンプを集めると、オリジナルグッズの詰め合わせをプレゼントします。そのほかにもはにわストラップ作りを11月27日に開催します。ぜひ、ご家族で松江歴史館へのご来館をお待ちしています。

次がホーランエンヤ伝承館です。10年に1回の伝統的な神事、ホーランエンヤの起源あるいは歴史についてこの伝承館で紹介しています。開館が平成24年10月28日で、ちょうど10年を迎え、その記念イベントを10月22日に行います。当日は馬潟、矢田、大井、福富、大海崎の5つの地区の保存会の方などにお越しいただき、記念式典では、切り絵作家の陶山広之さんから切り絵をご寄贈いただき、感謝状を贈呈します。陶山さんはパリ国際サロン会員で国際的に活躍されている松江市在住の切り絵作家で、日仏現代美術展・欧州美術国際展でも入選されており、ホーランエンヤを題材にした作品も多くあり、今回作品のご寄贈もいただきます。また、この10月に入館者数が10万人を達成いたしました。10万人目の市内の小学生に記念品を贈呈します。この日はホーランエンヤ伝承館を一日無料開放し、陶山先生の切り絵展、ホーランエンヤの回顧写真展、着付体験、野菜市、また先着100名の方にお餅、ポストカードを配布します。皆さまのご来館をお待ちしています。以上です。

(NHK)ガンプラについて、松江市とバンダイナムコグループが協力してということですが、松江市のかかわり方を教えてください。

(上定市長)ももとはバンダイナムコグループが製品を取り扱っている販売店向けに実施されており、プラモデル買いに来るときにランナーを持ってきもらって回収するという取り組みです。バンダイナムコさんとはスサノオマジックを通じてやりとりがあり、松江市では環境保全部を環境エネルギー部とし、環境あるいはエネルギーに対する取り組みの推進、SDGsについても今後取り組みを進めていくといった意見交換をしておりました。その中でバ

ンダイナムコさんも環境・リサイクルの取り組みをやっていらっしゃるという中から、今、静岡にしか置いていないけれども、こういった活動もあるとご紹介いただきました。我々もプラスチックリサイクルの取り組みを市民全体に広げていくに当たって、言葉を選ばずに言えば渡りに船のところがございます、一緒にこのプロジェクトを行いたいと申し上げて、この形になりました。

(朝日新聞) 西日本の自治体で初とありますが、どこから西日本なんでしょう。

(上定市長) 日本で2番目と言っていいかと思います。静岡市について2番目ということになります。市内でプラモデルを取り扱っている業者さんにもお話しをしており、実際にプラモデルを買われるときに総合体育館でランナーを回収していることを伝えていただけるように、声をかけ始めています。

(山陰中央新報) それでは続けてお願いします。

(上定市長) 最後にもう一つ、小説「ヘルンとセツ」のドラマ化の要望についてです。これは報告となりますが、先般12日にNHKの渋谷の本局に行っていました。益田市出身の小説家田淵久美子先生が、「ヘルンとセツ」という小説を、8月30日に出版されました。このヘルンというのは、ラフカディオ・ハーン(小泉八雲)のことで、ヘルン先生と親しまれておりました。そしてセツというのは小泉八雲の妻セツでございます。この二人を取り上げた、松江を舞台にした小説です。このドラマ化について、NHKに要望に行きました。NHKのメディア担当専務理事、理事でもあるメディア戦略本部長、メディアを担当のセンター長に、青木一彦参議院議員・田部松江商工会議所会頭と3人で参った次第です。田淵久美子先生の作品は朝の連続テレビ小説の「さくら」、大河ドラマの「篤姫」「江」とNHKのドラマに多数取り上げられており、今回の小説も、NHK出版から出されています。この物語は、当時日本の社会では非常に珍しかった国際結婚を経て、小泉八雲に日本の逸話、怪談等を語り聞かせるという非常に重要な役割を果たし大きな影響を与えたセツの物語となっています。この作品をドラマ化に松江市がなぜ積極的に関わってこうしているかについて、3点上げさせていただきます。1つ目が、小泉八雲の精神というのが現代社会を生きる、生き抜くヒントになるのではないかと考えています。2つ目は、ドラマですのでそのドラマ性が重要です。ヘルンとセツの波乱万丈な人生、実は2人とも再婚であり、ヘルンは16歳のときに左目を失明、当時松江では例のない国際結婚ということもありセツは差別のような扱いをうけるなどの困難を乗り越えて、この時代を生き抜いたというドラマ性もあり、また映像化することによって視聴者に訴求できる優れたコンテンツであると考えます。3つ目、令和6年はヘルンの没後120年に当たります。これを機に、ヘルンの功績をもう一度見詰め直し、また松江の伝統文化を紹介する絶好の機会であると捉えています。小泉八雲は世界に知られていなかった日本の面影、日本の文化そして日本人の気質を紹介し、日本のことを世界に広めてくれました。今度は我々が小泉八雲の功績を発信する側に立つべきではないかと考えています。松江は国際文化観光都市であり、これは法律で定められていますが、国際文化観光都市は京都・奈良・松江の3つしかありません。これを定めた国際文化観光都市建設法という法律の中に「ラフカディオ・ハーンが愛してやまなかったまち」と条文の中に人名がある非常に珍しい法律、しかも外国人の名前が入った初めての法律です。八雲が松江に実際に住んでいた期間は1年数か月と短いですが、松江の文化あるいは歴史に着眼しその魅力を発信していく際に欠かせない人物が小泉八雲であり、またそれを支えたセツであると理解しています。こう

いったことからNHKにドラマ化の要望に伺った次第です。

今日はメディアの専門家の皆さんがいらっしゃいますので、今後どう進めていけばいいかというようなアドバイス、小泉八雲の功績を今後松江市の発展にどう結びつけていけばいいかといったことについても、もしよろしければお願いします。

(NHK)私の立場でやりましようとか軽々しくは申し上げられませんが、確かに朝ドラとか大河の舞台になると「真田丸」などの例もありますが、地域振興にはなると思いますし、一個人としては盛り上がるきっかけになってほしいと感じました。

(上定市長)NHKの松江放送局さんが建て替え中ということもありますし、お隣の鳥取県の境港市では水木しげる先生にスポットライトを当てた「ゲゲゲの女房」の放送後、多くの方が観光に訪れ、水木しげるロードも非常に盛り上がったというようなこともありました。観光という側面だけではなく、NHKで全国的に放送されるというときの訴求力はすごいものがあると思いますので、そういった中で小泉八雲にスポットライトが当たるような形を今回要望させていただきました。

(山陰中央新報)ドラマ化の要望は、短編ドラマ、長編ドラマ、朝ドラですか。

(上定市長)今回は、連続ドラマの形、朝ドラということで要望しています。

(山陰中央新報)個人的には朝ドラにはまっているので、朝ドラで松江市が舞台になるとまた一つ盛り上がっているのかなと思います。個人的には、ぜひ実現してほしいです。

(上定市長)ありがとうございます。ちなみにマナカナさんが主演を務められた「だんだん」というのがあり、「だんだん」という言葉がありがとうという意味ということが全国に知れ渡ったといったこともありました。小泉八雲を切り口でというのはこれまでありませんでしたので、我々にとってもチャレンジではありますが、没後120年のタイミングもありますので、良い機会にできればと思っています。また何かありましたら、ぜひご意見をお寄せください。

(朝日新聞)新庁舎の総事業費が増えるという記事が出ましたが、膨らむ見通しを市長のほうでも持っておられるということでしょうか。そして理由も併せてお願いします。

(上定市長)工期が延びているとかといったことではなく、資材は着工してから調達する部分もあり、公共工事等の建設工事においてはスライド条項というのがありまして、物価等の変動に伴ってその価格についてももう一度交渉することができますので、施工業者と今後話していくことになります。一般的な統計データを取っていただいても、資材価格、工賃も含めてかなり上がっています。その要因としては、ロシア軍によるウクライナ侵攻で海外からの部材が入りにくく、資源高、資材の製造コストの上昇などがあります。日本国内にとどまらず世界的な動きとして資材価格の高騰がありますので、それに合う形での変更というのは今後必要という見通しは立てています。まだ具体的な金額については施工業者と今後協議検討していくところで明らかではありませんが、準備を進めたいと思っています。

(朝日新聞)11月議会での補正案提出ということでしょうか。

(上定市長)いつの議会になるかということはあると思いますが、増額になれば議会の承認を経て予算を確保する必要が生じますので、議会に上程する方向で検討を進めてまいりたいと考えています。

(朝日新聞)要するに資源高、原油高、さらにコロナの影響もあるということですね。

(上定市長)色々な物価高の要因の一つとしてコロナ禍も影響を与えている部分だと思います。今の世界情勢全

体として捉えたときの不透明感等も資源高あるいは物価高騰というところには要因として響いてきているのではと思います。

(朝日新聞) 業者の方と協議の上、補正予算案を出して増額する見通しであるということですね。

(上定市長) そうです。

(朝日新聞) 市民への周知方法はどのような形をお考えですか。

(上定市長) どこかで補正予算案として上程させていただくタイミングで、背景や金額の根拠について記者会見の場等で私のほうから直接ご説明することを想定しています。

(読売新聞) 市議会議員は市民の代表ですが、議会への説明はどのようにお考えですか。

(上定市長) これまでも、丁寧に説明してきているつもりですが、特に市庁舎の建設については市民の皆さんの関心も高かったというこれまでの経緯もありますので、より分かりやすく丁寧に説明したいと思っています。色々な機会を捉えて、市庁舎の建設費が上がるというご報告はもちろん、市庁舎についての利活用も市民の皆さんからのご意見をいただきながら考えてまいります。市庁舎の建設は来年の5月に1期工事が完成して引っ越しを予定しており、2期工事の完成は令和7年までかかる期間の長いものでありますので、市民の皆さんとは色々なところで市庁舎の利活用について意見交換することを想定しています。今回の資材価格高騰に伴う工事費の見直しについても丁寧に説明してまいりたいと考えています。

(読売新聞) 新庁舎はこれまでいろいろな経緯があり、現職の議員の中にも市の方針に反対されていた方もいらっしゃると思いますが、そういう方々に対してはどのような説明をされる予定ですか。

(上定市長) 契約条項の成り立ちや、どういった背景で物価、資材価格等が上昇しているかといった原因のところを説明した上で、理解をいただくべく丁寧にやり取りをしていきたいと思っております。

(NHK) 補正予算案の次回の議会への提出はあくまでそこを視野に入れているぐらいの表現ということですか。

(上定市長) 今の段階で価格にめどを立てて、いつの議会に提案するということを決めているわけではないです。

(NHK) 今のところ増える見通しではあるけれど、金額については精査中ということでしょうか。

(上定市長) 施工業者とは日々やり取りがありますので、その中で話は進めつつありますが、具体的な合意といえますか、コンセンサスが取れている状態ではないので、今後そこを詰めていく必要があるという認識です。

(NHK) いわゆる総事業費およそ150億円という表現になっていますが、今回増額する部分は同じく総事業費とすべきなのか、それとも建設費ですか。

(上定市長) 今回増額する部分は、建設工事費ですが、それに伴って総事業費も増えるということになります。

(NHK) 資材価格の高騰という外的要因ではあるといえ、充てられるのは市民からの税金というところもあると思います。増額に至ったという部分の市長ご本人の受け止めをお聞きしたいのと、新庁舎の建設は上定市長の選挙の争点にもなったという部分もある中で、市民の関心事であり、普通の補正予算案とは違うと感じています。その辺りの市民の方への説明、理解を求めていく部分をどのようにしていきたいかを教えてください。

(上定市長) 予算というのはあくまで有限でありとてもかけがえのないもので、収入がどんどん増えていくという構造にはなっていませんので、資源価格が高騰することで支出が増えますということにはならないと思います。行政ができる工夫をしていく、あるいは長期的な目線に立った上で効率的な予算執行に努めていくということが必要だと思っています。新庁舎について概算150億円ということで、松江市の一年の予算の規模が1,000億ぐらい

ですので、大きな投資ということになりますので、資材価格が高騰することによってではありませんが、しょうがないねという受け止めだけではなく、今後例えば50年とか60年とかの周期で運用していくことになりますので、そのときにどういった形で松江市役所を運営していくかが、コスト的にもそうですし、いかに市民の皆さんに使ってもらえるようなスタイルが取れるかどうかということも、考えていく時期だと思っています。繰り返しにはなりますが、市民の皆さんとは利活用の具体的な方策についてのご提案などを受け付けていく予定でして、その中で当然建設コストは多額にかかりますので、効率的な運用と効果的に使っていただける、あるいは市役所が主体となって使ってもらえる機会を提供するといったことについて詰めていくことになっております。コスト的な面はもちろんです、無駄が生じないように必要な投資を費用をかけただけはきちんと効果として回収できるような形で運用していくということを今後も心がけていくつもりです、そのための情報発信等は引き続きやっていきたいと考えています。

(NHK) 市民への説明という部分は、会見を通じての説明はもちろんです、何かしらの直接、紙なのか集会なのか分かりませんが、そのような場はいかがですか。

(上定市長) 行政のオフィスとして行政サービスを受けたいときだけに使われるようなものではなく、ある種にぎわいの拠点としてたくさんの方が集えるような場所にしたいという思いがありますので、そのように使っていただけるような、市役所に行きたいと思っていただけるような庁舎にしていくことが必要だと思っています。それについてのアイデアをいただいたり、我々からアイデアを提供して、それについてのコミュニケーションがあった上で使っていただけるように、私も当然、そういった説明会の場には赴き、じかに意見をいただく機会も設けたいと思いますし、ワークショップ的に世代、地域などで人数を絞るかもしれませんが、何らかのやり取りができるような仕組みを今考えているところです。こういった記者会見の場で一方的に説明することだけではなく、市民の皆さんの意見が必ず行政に届いてくるような仕組みをつくって、その中で市庁舎の利活用についての検討を進めたいと思っています。

(読売新聞) 市議会の11月定例会が来月に開会されますけど、そこに出す補正予算とは限らないということでしょうか。

(上定市長) そうですね。市から一方的に出すものではないので、施工業者との調整を進めていくということになりますので、今の段階で11月議会の提案に盛り込むかどうかは定かではありません。

(読売新聞) 外的要因とはいえ様々な経緯があって150億円であったのを増額せざるを得ないという部分もあると思いますが、この状況になったことに関しての受け止めをお願いします。

(上定市長) 市政全体の運営の話だと思います。非常に分かりやすいテーマとして市庁舎建設ではありますが、結局歳出が増えている状態です。一方で、例えば企業の利益が上がって法人税収が全体として増えているかという、まだバランスしていない状態。特にコロナが長引いていたという状況もありますので、歳入と歳出のバランスについてしっかり取っていく必要があるというのは新庁舎建設に限った話ではないと思います。行財政改革というのは絶えずやっていますが、特に収入が伸び悩みながらも歳出が増えるという状況の中での行政運営の中期的な見通しなども立てているところです。そういった見通しの中に盛り込みながら今後の財政運営を考えていく。その中に新庁舎についての工事費の増額というのも含まれるという認識です。

(読売新聞) この増額せざるを得ないという状況に対する受け止め、市長のお気持ちを伺いたいです。

(上定市長) 今後の財政運営上、現行の物価の上昇ということは丁寧に織り込んでいかなければならないと思っ

ていますし、その説明に当たっても皆さまとしっかり共有できるような形での丁寧な説明が必要という認識です。

(山陰中央新報) 原発の運転期間のことにに関して、国のほうが原則40年、最長60年という現行規定の撤廃の見通しを示しておりますが、それについての受け止めをまずお伺いします。

(上定市長) 松江市として期間について何か直接的に意見する立場にはないと認識していますが、ただ議論がなされていることは承知しておりますので、今後も国の動向についてはしっかりと注視してまいりたいと考えています。

(山陰中央新報) 先日、丸山知事は記者会見で長期運転の懸念の払拭が必要だという認識を示されましたが、市長は国の状況を注視していかれるということですが、もう少し具体的な受け止めをお願いします。

(上定市長) 今までと何か変わったことがあるわけではないですが、当然のことながら市民の皆さんの安心安全の確保というのが一番上に来る概念ですので、それが確保されない形で原子力発電が稼働しているという状況はあり得ないと思っております。期間の話だけではなく、全体としてしっかりと安心安全を確保されているかという捉え方をしていかなければならないというのは変わらない信念になります。

(山陰中央新報) その安心安全、運転期間のことにに関して丸山知事もおっしゃっていたように長期運転になればそれだけ、一般的に考えると期間が延びれば延びるほど安全性には疑問がついていくものだと思います。そこに関してはいかがですか。

(上定市長) 一般的な話としてですが、時間がたてば経年劣化していき設備そもそもの、例えば耐震性であったり強度であったり、そういったもの少なくとも私が知る限り通常の設備として利用されている一般的なものは当然劣化が進んでいくものと認識しています。その際色々な科学技術の進歩等もあるかと思っておりますし、補強技術もあると思いますので、松江市が単独でその構造計算をして判断することは難しいので、そこは政府の十分な説明も求めるつもりでいますし、そういった中での期間の延長あるいは別の変更が加わるときに安心安全が確保されているかという目線で今後も見ていく必要があるという理解です。

(山陰中央新報) 例えばその懸念の払拭に向けては審査の強化や、こういったことをして安全性を説明してほしいと感じていらっしゃいますか。

(上定市長) まだ政府のほうから示されている公式な何かがないものですから、今の段階でどういうアプローチをしたらその安心安全が確保されていると腹落ちができるのかということも含めて、これといった方針を見据えているわけではないです。今後、具体的に明らかになっていくプロセスにおいて、こういったアプローチでその安全性が疎明されるのかとか、期間についてこういう理由で延長しても大丈夫じゃないかという案が示されるとか、その辺を見ていかないと今の段階では判断はつかないなというのが今の感触です。

(時事通信) J-ALERTに関してお伺いします。今月4日にJ-ALERTによる情報伝達が5年ぶりにあり、松江市はじめ島根県は対象ではなかったものの、一部不具合が生じたということで、一自治体の首長としての受け止めをお願いします。また、総務省消防庁が全市町村に対してJ-ALERT機器の点検を要請しました。松江市の点検の状況についてもお願いします。

(上定市長) 防災についての取り組みというのは、天災がいつ起こるか分からないという中で、日々最新のものにブラッシュアップしていく必要がありますし、その運用のための訓練というのも随時していく必要があると思います。行政だけのものにせず、市民の皆さんの理解を得た上で万が一のときに動けるような形というのを整えておくというのは、原発事故なども含めて想定しておかなければならないですし、J-ALERTに限らず、今後政府の取り

組みの方針も見ながら、松江市として市民の皆さんの安心安全が確保されるためにあらゆることをしていきたいと思っています。11月7日と12日に原発の防災訓練があります。そういったところでも問題点を見据えそれを改善していくために、日々最善のやり方をブラッシュアップしていく形での備えを今後も続けていきたいと思っています。

(時事通信) J-ALERT機器の点検については、松江市の取り組み状況はいかがでしょうか。

(上定市長)国からの通知に基づきまして、適切に対応しております。特に何か不具合があるとか、何か情報伝達上問題があるという認識は全く持っておらず、当然定期的な点検や定期的な訓練は必要ですので、日々そういったチェックについては繰り返していきたいと考えています。

(山陰中央新報)新型コロナウイルスの感染拡大に伴う入国制限が大幅に緩和されました。まず、その受け止めをお願いします。

(上定市長)これは全般的に言えることですが、コロナのフェーズが変わってきているということだと思います。だからといって、今後、鎮静化に向かっていくとまで言い切れないところもあり、島根県全体として見ると石見のほうで増えているような状況にあり、人数の把握の方法も変わっているので必ずしも同じ物差しではないという前提ではありますが、松江市も2桁がずっと続いているような状況で、ここは行政としては慎重に見ていかなければならないという思いはあります。ただ、政府の方針として海外に対して門戸が広がったということは好意的には受け止めております。特に10月から秋の行楽シーズンを迎えて観光にとっては書き入れどき、国際文化観光都市の松江においても海外からのお客様を迎えることができるというのは非常にいい材料だと思います。昨年を振り返ると松江市の場合10月から1月の始めまで感染者数がゼロという状態が続き、1月になってオミクロン株による感染が急拡大したという状況もありましたので、感染状況については注視しつつ、ただ目下のところで門戸は開いているということについては前向きに受け止めて、市民の皆さんには引き続きの感染予防をお願いをしながらも、徐々に経済の回復に向けての取り組みというのも後押ししてまいりたいと考えています。

(山陰中央新報)全国でインバウンドの誘客合戦がコロナで観光が傷んだ分、また過熱化してくると思います。松江市として海外PR、例えば市長のトップセールスなのか、何か誘客の今後の戦略を教えてください。

(上定市長)インバウンドに向けては、これまでも準備をしています。台北市に行く予定もありまして、台北市と松江市を含む中海・宍道湖・大山圏域の5市で連携を深めていきたいと考えています。またヨーロッパ、特にフランスを考えています。最近、小泉八雲のスピーチコンテストがありまして、8月に着任されたばかりの 아일랜드大使に早くも松江に来ていただき、随分お話しすることもできました。今後の連携、またインバウンドの門戸も開くという話もご理解を得ております。今までつながりのある海外の国で既に松江のことを理解いただいている国、いつか行ってみたいという潜在的な観光需要があるところを重点的にトップセールスも含めてやってまいりたいと思っています。来年以降実際にインバウンドが盛り返してきたときに、あまたある地方都市の中でなぜ松江が選ばれるのかというストーリーをつくっておかなければいけないと思います。今までも観光業界の皆さまとは意見を交換し準備はしてきたつもりですが、観光庁の予算も幾つかつきまし、観光事業者自らが高付加価値化していくような取り組みをされますので、行政としても一丸となって取り組めるよう、オール松江市で観光の需要を引きつけていけるような取り組みを今後も重ねてまいりたいと考えております。

(上定市長)ドラマ化についてのアドバイスは随時受け付けておりますので、ぜひメディアの皆さんから貴重なご意見をいただきたいと思っています。引き続きよろしく願いいたします。どうもありがとうございました。